

# 漢方の丸薬工場と 合体したクリニックス

香杏舎銀座クリニックス 日笠 穰 院長



香杏舎銀座クリニックス

院長

日笠 穰

(ひがさ・みのる)

■医学博士。兵庫医科大学非常勤講師。

1979年兵庫医科大学卒業後、漢方医の山本巖に師事。鐘紡記念病院漢方外来などを経て92年神戸で開業。4年前銀座に移転。1987年イスクラ厚生事業団漢方研究奨励賞受賞。



クリニック内にある丸薬工場

■現代の難病用に新漢方処方では、昔から使われている漢方処方ではない。花粉症やアトピー性皮膚炎を例にあげるまでもなく、昔になかった病気が今は多く、現代の難病を治療するためには新しい漢方処方を作る必要がある。

一般の人には漢方丸薬は馴染みがないが、煎じる手間がなく、携帯に便利だけでなく、長期間の保存がきき、中国では広く使われている。日本で作られていないのは、作るのに大変な手間と相当な

技術を要するからである。■がんの治療に効果を発揮 煎じ薬を飲む場合に問題になるのが毎日煎じなければならぬことと、味の問題だろう。「良薬口に苦し」とは言うものの、例えばがんの患者さんが、抗がん剤治療と併用して漢方を服用する際には抗がん剤の副作用で吐き気が出る場合が多く、継続して煎じ薬を飲むことが難しい。その点、丸薬は味がしないためにも飲みやすい。様々な丸薬を作ってきたが、がん治療の丸薬を作成するのはその量の多さから困難を極めたが、最近、丸剤化に成功したから抗がん剤の治療を受けている患者さんは薬に飲めるようになった。

クリニックでは必ずにに応じて一人の患者さんだけのための丸剤を作る。現代医療で治療困難な病気は、漢方医学にとっても困難な病気である

ることに変わりはない。そんな場合、患者さんの経過を見ながらより効くように薬を改善していく。こういう作業を続けるうちに百数十の丸薬が生まれた。

## ■遠隔診療にも取り組む

香杏舎銀座クリニックス独自の丸剤による治療を望まれる患者さんの希望にこたえるため、テレビ電話を利用した遠隔診療をしている。医院まで来られない歩行困難な患者さん、遠方の患者さんには大変便利といえよう。クリニックでは国内はもとより、フランス、オーストラリアの患者さんの治療もテレビ電話を用いて行っている。

## 香杏舎(こうきょうしゃ)銀座クリニック

完全予約制、自費診療専門

電話対応時間▶平日/午前10時~午後6時 土/午前10時~午後1時

休診▶土曜午後・日曜、祝日

料金▶初診料3000円、再診療2000円

お薬代800円~1200円

所在地▶東京都中央区銀座2-2-4

ヒューリック西銀座第2ビル3階

アクセス▶JR有楽町駅徒歩5分、

東京メトロ有楽町線銀座一丁目

駅4番出口より徒歩2分

電話▶03-6228-6763

http://www.higasa.com/

香杏舎銀座クリニック

検索